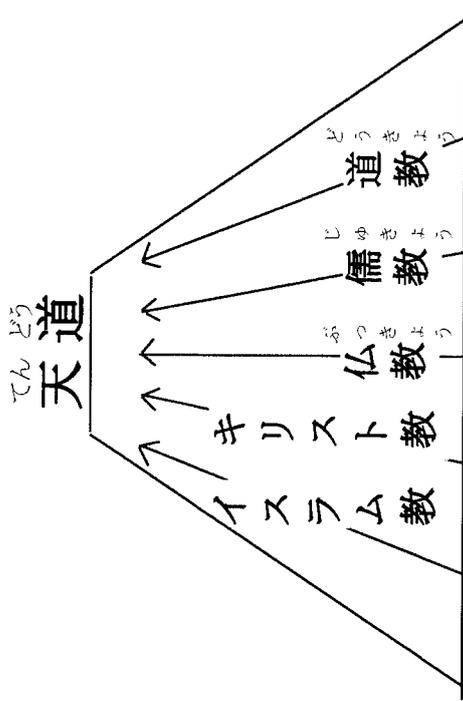


しゅうきょう  
**宗教ではありません**  
 ねん  
**5000年ぶりに明かされた三宝。**



しよみん こうかい  
**1890年庶民へ公開**

もとはひとつのね  
**元は一根**

646362	徐弓路	明長祖	師祖弥勒
46	達磨		
18	釈迦	迦	仏教
1514	孔子	子	儒教
121110987	武王	湯	帝
121110987	文王	帝	帝
321	黄帝	伏羲	農
321	伏羲	農	漢
321	伏羲	農	方
321	伏羲	農	卦
321	伏羲	農	業

てんめい ひちしんぶつ やぎぎま だ  
 天命が七神仏より伏羲様に伝えられる

ごせんねんまえ

どうとう  
**道統** (道の歴史)

**五千年前**

せかい ごだいしゆきまう さいしゆもくてき ごくらくじようど てんごく かえ  
**世界の五大宗教の最終目的は極楽浄土・天国へ帰る**  
 こじ りんねげだつ ひと ちから でき  
**事 (輪廻解脱) ですが、人の力では出来ません。**

せかい ただひと てんめい でき ところ  
**世界に唯一つ天命のもとに出来る所があります。**

まえ せいじんけんじん ひとり ひとり つた  
**5000年前から聖人賢人に一人から一人へと伝わる**  
 てんめい いっしかんてん ほう さんぽう しょうかい  
**天命の一指貫天の法“三宝”をご紹介いたします。**

一生いっしょうにただ一度いちどのお参りまいりで死後しご、  
極楽ごくらくへ昇のぼります

# 得道とくどう 即そく 成じょうぶつ 仏

得道とくどうとは一生いっしょうに一度いちどのお参りまいりで輪廻転生りんねてんしょう（動物や虫類等むしるいなどに生まれ変わる事こと）を断ち切りたきしご、死後しご、必ずかなら極楽浄土ごくらくじょうどに行ける道みちを得ることです。

仏門ぶつもんの得度とくどとはまったく違ちがうもので、宗教宗派しゅうきやうしゅうはを問とわず、五千年前ごせんねんまえから聖人帝王せいじんていおうの間あいだでひそかに継承けいしょうされてきた秘宝ひほうです。多くの修行者しゆぎやうしやがこの道みちを得ようと生涯しょうがいを費ついやして厳きびしい修行しゆぎやうを行おこなつてきましたが、得えられるのは、お釈迦しやかさまや老子らうしさま孔子こうしさまなど、ごくわずかな聖人せいじんだけでした。しかし、今いまや末世まつせの大きな災わざわいが目の前めまえに迫せまり、天てんは広く庶民ひろしよみんに得道とくどうをお許ゆるしになられました。約百二十年やくひやくにじゅうねんまえ前の事ことです。特別な修行とくべつしゆぎやうも、莫大ぼくだいな財さいも必要ひつようありません。ただ信しんじ、得えれば救すくわれるノアの方舟はこぶねです。この安心立命あんしんりつめいの道みちを、ぜひ、ご家族かぞくご友人ゆうじんとご一緒いっしょにお受うけ下ください。

得道とくどう（三宝授記さんぼうじゆき）

- 死し後ご、必かならず極ごく楽らくへ昇のぼる為ため、死し後ご硬こう直ちが有ありません。
- 又また死しの苦くるしみが殆ほとんど無なくなりません。
- 宗しゅう教きょう宗しゅう派ぱいには関かん係けいなく授さげられません。
- 家か族ぞくで受うければ極ごく楽らくで、又また会あえる為ため、
- 死し別べつでも、悲かなしみは殆ほとんど有ありません。
- 生しょう涯がい、ご神しん仏ぶつのご加か護ごが有ありません。
- 末まつ劫きやう（末まつ世せの大だい災さい難なん）かのら逃のがれません。

ラウム

申ま様ま（宇うち宙ちゆう創そう造ぞうの神かみ）を各かく宗しゅう教きょうでの呼よび方かた

儒 <small>じゆ</small> 教 <small>きょう</small>	明 <small>めい</small> 明 <small>めい</small> 上 <small>じやう</small> 帝 <small>てい</small>	孔 <small>こう</small> 子 <small>し</small> 様 <small>さま</small>
道 <small>どう</small> 教 <small>きょう</small>	天 <small>てん</small> 地 <small>ち</small> 生 <small>せい</small> 育 <small>いく</small> の母 <small>はは</small>	老 <small>ろう</small> 子 <small>し</small> 様 <small>さま</small>
仏 <small>ぶつ</small> 教 <small>きょう</small>	阿 <small>あ</small> 弥 <small>み</small> 陀 <small>だ</small> 仏 <small>ぶつ</small> 無 <small>む</small> 量 <small>りやう</small> 寿 <small>じゆう</small> ・無 <small>む</small> 量 <small>りやう</small> 光 <small>こう</small>	お釈 <small>しゃ</small> 迦 <small>か</small> 様 <small>さま</small>

キリてんスちトしゆ教きょう 天てんの父ちち 主しゆ 王わホバ キリてんスちトしゆ様さま

イてんスしゆラてんムしゆ教きょう 天てん主しゆ アてんラしゆ ムしゆホてんメしゆツてんトしゆ様さま

神しん道どう 天あめ之の御み中なか主ぬし之の神かみ

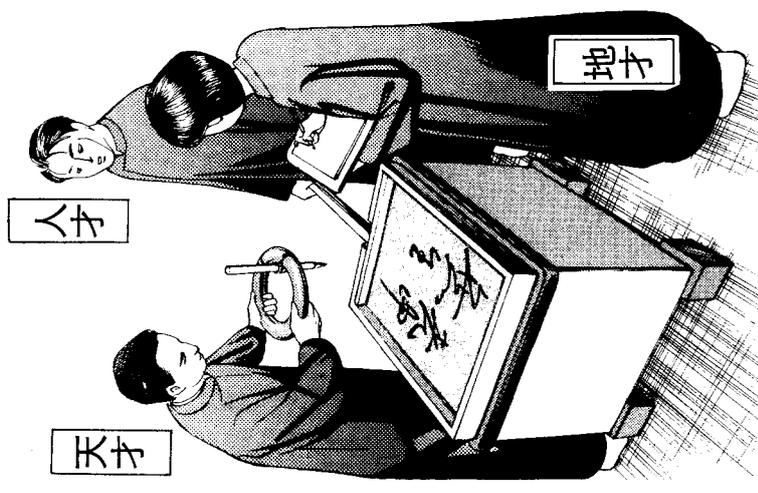
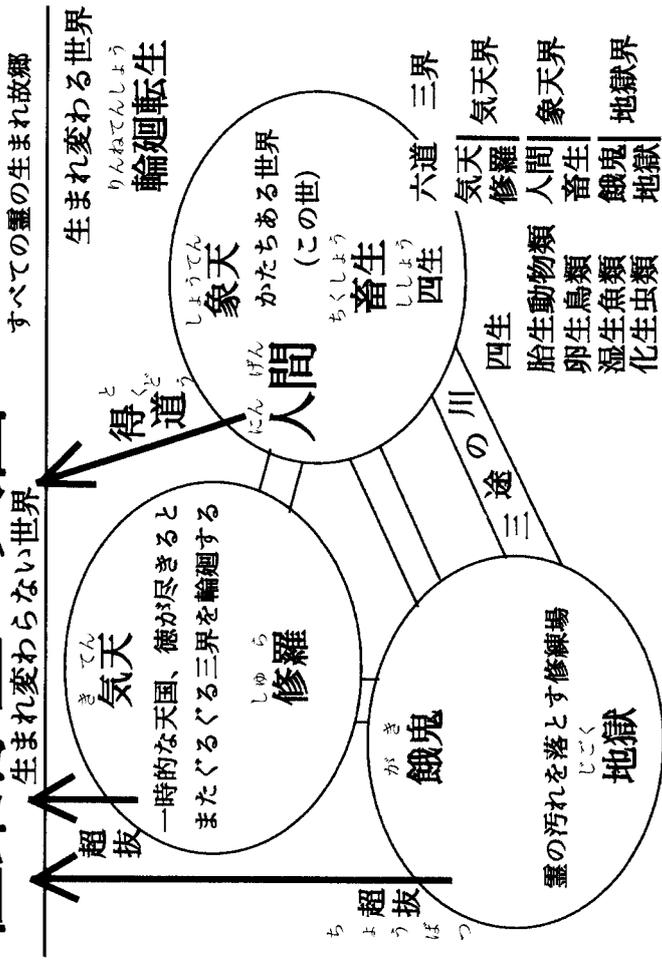
母はは 申ラウム 示かみ申かみ 神かみ

肉にく体たいの母はは 霊れいの母はは 古こ文ぶん書しよのかみ 神かみの字じ

神かみという字じは申ラウムをしめ示かすと書かきません

# 極楽浄土・天国

選ばれた聖人帝王が昇る彼岸  
 親神のまします最高天で  
 すべての霊の生まれ故郷



天才

地才

りんねてんしょう  
**輪廻転生**・人は絶対に死

にくたい ぬいで けい  
 にくたい ぬいで けい  
**に**ます。肉体を抜け出た霊は

さんず かわ わた じごく えんまさま  
 さんず かわ わた じごく えんまさま  
**三**途の川を渡り地獄で閻魔様に

きさ い きき き  
 きさ い きき き  
**裁**かれ行き先が決められます。

ほん じごく きみ しゆぎょう  
 ほん じごく きみ しゆぎょう  
**殆**どは地獄で厳しい修行した

あと さい じしやう たい どうぶつるい らん  
 あと さい じしやう たい どうぶつるい らん  
**後**、次の四生(胎、動物類、卵、

ちまるとら ぎまるとら か むしとら ろくとら  
 ちまるとら ぎまるとら か むしとら ろくとら  
**鳥**類・湿、魚類・化、虫類)六道

きてん あしゆら にんげん ちくしやう が  
 きてん あしゆら にんげん ちくしやう が  
**(**気天・阿修羅・人間・畜生・餓

きじごく う か  
 きじごく う か  
**鬼**・地獄)に生まれ変わります。

ひらんせんか へん ち りん きんぎ  
 ひらんせんか へん ち りん きんぎ  
**飛**鸞宣化・天・地・人の三才

りてんしん れんらくほう  
 りてんしん れんらくほう  
**に**よる理天神との連絡法。

ちさい もじ か と  
 ちさい もじ か と  
**↑**地才・文字を書き留める

じさい もじ よ あ  
 じさい もじ よ あ  
**↑**人才・文字を読み上げる

てんさい くんれん つ もの  
 てんさい くんれん つ もの  
**↑**天才・訓練を積んだ者が、

もくぴつ も さばん まえ た め  
 もくぴつ も さばん まえ た め  
**木**筆を持って砂盤の前に立ち眼を

と りてんしん れい てんさい からた  
 と りてんしん れい てんさい からた  
**閉**じると理天神の霊が天才の体

つか さばん もじ つ  
 つか さばん もじ つ  
**を**使い砂盤に文字を綴られる。

つぎ ぶんしょう じくらくじょうど りてんしん

# 次の文章は極楽浄土の理天神が

ひらんせんか か

## 飛鸞宣化で書かれましたメッセージです。

どうやく どうおく どうきてんだんかいだんごせいこん

もと ひとつこん

# 元は一根

と はね おも いた みから  
躍ぶ羽根の念えば到るこの身柄

てんによ われ われ てんによ  
天女が我が 我が天女か

おくやま こ きやく なつ  
奥山を越え去り来れば懐かしき

かど た は は だ ひか  
門に立つ申抱きて迎える

お た た あゆ せ た た  
起きて立て立ちて歩めと背な叩く

かみ ぢら こう た え  
神の策にて功を建て得る

われは  
吾乃

かんせおんぼさつ  
観世音菩薩

じめい たてまつ なんかい のぞ  
慈命を奉りて、南海に臨む。

むよう ちようらい じゆんぼく たみびと まみ りくぞく かいだん きつぼう  
中容を頂禮し、純朴なる民人と会ゆ。陸続たる開壇の吉報、

てんじんともよろけいしゆく こと いちふん てんどう しょうかい  
天人共々慶祝して、茲に一文、天道を紹介せんとす。

はっは とどむ  
哈哈止。

ひとり こ ひとり はは まんにん しゆじょう ひと れい はは  
一人の子に、一人の母あり。万人の衆生に、独りの霊の母あり。

らうん もう あ おや こ あい おのれ おのれ おも いじょう われら  
申と申し上ぐ、親が子を愛し、己が己を想う以上に、我等

いと お たま う まえ な のち  
をこよなく愛しみ給うなり、生まれし前より、亡くなりし後

てんち さき うちゆう お なお ほく たま おんかた  
も、天地の先より、宇宙の終わりも尚も育み給う御方なり、

ほしあいだ むじあいす こうぞく へいわ いた しか  
母子相抱き、申児相棲まうは幸福と平和の到りなり。然れど

理天神・・・

輪廻しない神。過去に三宝を授かった神。

輪廻する世界（四生六道）の霊達を極楽浄土に導いてくださる御神佛。

天壇・・・理天界・極

楽浄土と直結する祭壇。天壇のまわり、半径百歩以内があらゆる災害の安全地帯になります。

天壇を預かった人に天壇名を付けて下さる儀式が開壇御請訓式です。飛鸞宣化で降ろされたメッセージを御聖訓とよびます。日本では昭和25年から始まり今では2500訓以上あります。

理天神様より、人間・霊界の一番大事を教えて頂いておられます。読めますのでお問い合わせ下さい。

観世音菩薩様、普賢菩薩様の御聖訓をここに公開させて頂きます。

今の世に在りて、情操冷やかに、道德荒ぶは是れ、親子相和せず、而して萬人が申を信ぜざるに依るなり。申は萬古の郷愁なり。終局の歸趣なり。申によらざれば我等一寸たりとも活くる能わず。永劫に救わる能わざるなり。申の家は何處に在りや。異地に行くに、海路・陸路・空路あるがごとく、路は長安に通じ、大道は理天に達すものなり。申への路を古来、天道と言うなり、山を登坂するに幾つもの入口有れど、頂上は一点なり。千枝萬葉有るとも、元は一根なり。教門數多群がれども、申の一点には天道にて達し、理天の一根は法に依りて還れるものなり。法は當に眼門の一竅に在り。此の玄妙関は理天への扉、大道の門口なり、吾觀音、十四年の修行も最後に明師の授機に會て完成を見たり。諸佛諸祖の成道は皆、三寶に依りて成れり。彼岸は汝の面門に隣接す。小悟無數に有るとも、大悟は此の得道の一訣に在り。信疑・修怠に関わらず、必ずや申の里に歸す能うなり。父長の命は家族を収め、國王の令は國土を統ぶるが如く、老申の天命は絶対の權威と悠久の権限有り。何人も是れを拒む能わず。誰人も之に依らずして、極樂淨土に往生する能わず。天命を天地開かれしより閉ずる迄、道統の祖師が之れを繼承し、断絶するなし。故に天道は宇宙の王位にして、世界の中心なり。此の威嚴は天壇の至聖所にて顯現される。一個の天壇は地上の僧院、全てを集むるも之れに比し難し。仏閣神社は既に荒廢し、教説も民衆の益に成り難し。一晝の間も萬丈の理天を茲に見るべし。那の末劫襲うとも死の灰を被る能わず。鬼の手も侵す能わず。方舟となりて劫海を浮かぶなり。神棚

千枝萬葉、元は一根・・宗教が枝分かれし、葉のように何万と有りますが元は一つの根、天道から出たものです。

永劫・・永遠。

理天の一根は法によりて帰れる・・極樂淨土へは三宝にて帰れる。

授機・・(授記) 三宝を授かる事。

眼門の一竅・・三宝。玄妙関。聖人は皆この一竅が開かれています。一竅を理天神に開いて頂く儀式を得道式と申します。

小悟・・日頃の納得。

大悟・・輪廻転生から抜出す事、解脱する、覚る。

信疑・修怠に関わらず・・信じる、疑う。修行する、しない。に関わらず救われます。

道統・・今のこの時運の為に。聖人賢人が五千年前より一人から一人へと天命を伝えて来た道の歴史。

佛壇を祭るが如くに、一家一壇をもつて劫筈を乗り越ゆるべし。

宗教は僅か二・三千年にも充たず、既成新興に至りては

現世の利益を専らとして、人生の真義を解す能わず。教義

は月を指す指にして月に非ず、彼岸を目指す船にして彼岸

に非ず。申は月そのもの、天道は彼岸その事なり。一法を

得、一壇を設けし者は次の泰平の地上天国に住む事を許さ

れるなり。逸早く發願して求聞・設壇の願を遂げよ。生とは法

を求め、法を傳う為の人生にして、凡事のみに費やされるべき

に非ず。徒に光陰を過すなば、死して萬乗の罰を受くべし。

紅顔の少年、忽焉として白髮の翁に成れり。老幼は背中を

合わす。老いに幼きに、道を違ふべからず。幼きとも早から

ず、老いるとも、遅からず。道を得なば是れ好節にして、一途に

道を以て指針とせよ。

病の苦、貧の苦、天理流れて因果を示す。一切は是れ応報の結

果にして、原因は己自身に在り。利益を求むも之れ策に非ず。身

を病むも、命病まず。身貧しきも性豊なれば、憂うる事なし。

死に臨めば心柔軟にして聖衆來迎し、即座に理天に登り、

申を拝す。然れど、無縁は形相引き攀り、体硬直して鬼卒

の引接に会う。何れを把るや。生死の分かれ目は、今の一決

に在るなり。

信仰とは得るに非ず、捨つる事なり。犠牲なり。献身なり。奉仕

なり。無一物にて、靈は無盡蔵の歡喜法悦溢るるなり。誰ぞ、之

を味わうや、之を逃すや。現世の喜び愉しみ程、虚しく儂き事

なし。求むべきは永劫の幸せなり。楽しきなり。

信じて、身は損するも申の愛に包まれし者は幸福此の上なし。

信じるとは、愛なり。申を愛し、衆生を愛し、自己を愛すな

れば道を傳えざるを得ん。身を癒し心修むとも、靈を救う事の

方舟・大洪水(劫海)から逃れた船。

劫筈・多くの人が死ぬ大災害。

教義は月を指す指にして月に非ず、

宗教は人が作ったもの、解脱への道を説

くが、解脱は出来ない。

天道はラウム様が作りしもの、解脱が

来ます。宗教と天道の大きな違いです。

求聞・求め聞きなさい。

凡事・生活の為に費やす月日時間。

光陰・月日。(あつ

と言う間の一生。人

生80年で3万日、1万は眠り1万は働

く、残りは後、何日)

因果応報・

良い原因には良い結

果、悪い原因には悪い結果が来る法則、

条件が整うと結果が起ります。

性・さが、人の本性(ほんしよう)生

まれながらの心。

他に至高の愛の現れなし。傳道こそ、愛の実践なり、愛の表現  
なり。不滅の生命を得させる天職に勝るものなし。愛は真心  
の發露なり。誠の流露なり。心を盡くし、体を盡くし、命を  
盡くし、性を盡くすなば、中の真実の愛に目覚めるを得ん。  
此の行は願にて起るべし。願無くば何事も成就する能わず。願  
は愛と誠の意志なり。目標なり。老中と共に諸佛諸菩薩は  
普渡収圓・萬教歸一の大願成就の為に日夜、血汗涙痕を流  
して三千十方に奔走し続くなり、吾觀音も之に洩れず、中を  
慰め申し、衆生を安んぜんが為に、我が身を悉く粉にして説  
き巡るなり。  
汝等よ、善き生まれ、美しき靈の持ち主達よ。若し我が直言  
に感ずなれば汝の生命を天道に捧げよ。汝の一生を中に  
委ねられたし。而して汝發心するなば、觀音又、汝より離る  
る事無く護り庇う事悠久なるべし。  
汝と我は一体なり。中と汝は一心なり。汝には最早、不安恐  
怖、何事も前途を遮ぐる無し。汝よ、信ぜよ。強く信ぜよ。汝  
よ中の愛を信じ切りて生涯を貫くべし。中の愛程、汝を  
幸いにするもの無し。天道程、汝を未来久遠に亘りて導  
く法は無し。我觀音と共に中に縋りて道を傳えん。  
基夫賢士に告ぐ。火を吐く如く、鳥の飛ぶ如く、全土を飛び廻る  
勇敢の傳道士たるべし。熱血の壯士は決断せば止むを知らず。  
大難を物ともせず突破すべし。双肩に担えし責任は大なり。速や  
かに列志を立てて前方を行くべし。期待大なり。  
幸一賢契に告ぐ。老齡にして豊饒たり。内に秘めし情熱の程を  
見たり。  
人生の久しき体験を活かして、後学を指導せられたし。任務は

無縁・・・この話を讀み、聞く事が出来ない人。

無盡蔵・・・尽きる事の無い事。

傳道・・・前世、前々世またはるか昔の人生に、いつか弥勒の時代に生まれ三宝を皆で授かろうと誓い合つた佛弟子が廻りに無数に、この天道の縁を皆待つています。

普渡収圓・・・全ての靈を理天へ救い、まるく収める。

渡：(度)濟度する。迷いの世界(此岸)の衆生をさとり世界の彼岸に渡すこと。輪廻から抜出さす事。

萬教歸一・・・全ての靈の修行者がラウム様の元、故郷理天へ歸る事。

血汗涙痕・・・血の汗、血の涙が乾く暇の無い程。

三千十方・・・全ての靈界の隅々まで。

天人の期する處余り有り。真実なれば周回感化せられる事、  
確かなり。

中命により、壇号、基夫には道躍天壇。朝夫には、道奥天壇、  
幸一には道起天壇を夫れ夫れに賜わりたり。各々の意、全文を  
貫く。斯島の善心、協力して道の為に全てを捧げ盡くされん  
事を祈るものなり。更に尚、天壇の開設、後に続くを託せり。

我、詞止め、  
老中に辞叩して家園に去る 哈哈 退。

道林・道辺・道基増設天壇開壇御聖訓

# 宗教に非ず

林中の菩提一樹に禅座せば

三千世界掌なり

辺地なる理天の端も欲天に

比すなば樂は王と乞食

我本

## 普賢菩薩

中命を奉戴し、道基天壇に来到す。

皇中を禮叩し、道善の士と会面契心す。初見の者、天筆正さ

に奇遇の神音佛説にして、能く心耳に刻印して人生の本懐を

究盡くすべし。

開壇出航を祝賀して、茲に一文留めんとす。哈哈 止。

茲に道有り。その名を天道と謂う。悠久の太古より既に存

せり。始まり無く、終りも無く、一切に先立ちて在り。一切の

後にも又、在り。不変不滅、永劫永久の真理にして、実在な

理天の端も欲天に  
比すなば樂は王と

乞食・・・三宝を授か  
る事は、この世の樂  
で言えば王様級、輪  
廻する事は最最下層  
の生活。

奇遇・・・不思議な縁  
で出会う事。

神音佛説・・・神佛の  
説く本当に伝えたい  
今現在の事。

心耳に刻印・・・心に  
刻みつけなさい。

人生の本懐を究

盡・・・人に生まれて  
一番大事な事は輪  
廻から拔出す法に  
出会う事。

(かなり前から、金  
儲けが一番、と誤つ  
た考えが広がって  
いますが、この世の  
ものは、指輪一つ、あ  
の世に持つて帰れま  
せん、持ち帰れるの  
は罪と徳だけ。大き  
な徳積みは人助けで  
す。中でも人を極樂  
に連れ帰る程大きな  
徳積みは有りませ  
ん) 解つたら究めつ  
くしなさい。

開壇出航・・・安全地  
帯になる天壇を預か  
り、皆を乗せる事。

何物も之より出でざる無く、何人も茲より生まれざる無し。靈の本巢、心の宗家、体の帰宿なり。宇宙天地を活動運搬する源力、人生生死を流行出沒させる命力、皆、道より發せざる無し。

その心を古來、神佛と稱し、今、申と言う。申は生命自然

界の母体にして、心靈性命界の根源地なり。一切の事物は

申より出で、申に歸し、道より降り、道に昇るものなり。

自然は有象なれど、遂に無象の天に復すべし。

人間は有体なれど、終に無体の靈に戻るべし。

道は口言の教説に非ずして、道理法理、一切真理の源由を

事実にして顯現す。故に、天道は宗教に非ず。人類が求め

歩むべき一なる根本理なり。

人生如何に暮らすべきかに非ず。生死如何に脱すべきかに

人生の課題あるべし。之れを悉く解き明す答は只、道に有

すべし。法に存すべし。理を離れて正しく活きられざるべく、又、

元に歸られざるべし。

道にこそ、人の畢竟の面目有るべし。

◎人生に苦惱する者よ、道に来たれ。

天道はその苦悶の因縁を根本より解放し、幸樂の希望を前途

に照さんとす。萬年の束縛を解かれし者は、此の身を以て永久

の生命ある、理天極樂に歸し住まわん。

◎貧困に悲痛せる者よ、道に来たれ。

物象如何に豊富に蓄えども、心虚しからは一切無くに均し。

物に先立ちて心有り。神を愛し、人を愛する心の豊かさを傳

法以て教えんとす。

靈は形を凌ぎて余り有り。徳の満つるは財の充つより久遠

に亡びず。

靈の本巢・・・すべて  
の靈のふるさとと理  
天。靈の親が  
ラウム様、理天界へ  
歸る道を天道。天道  
の三佛、弥勒様、  
觀音様、天然古仏様。

有象・・・かたちが有  
る。無象、かたちが  
無い。

口言の教説に非  
ず・・・言葉や心の救  
いだけの教えではな  
い。結果が出ます。

一なる根本理・・・  
人が生きて行く上で  
の根本の真理。

人生の課題・・・  
生死(輪廻)から  
かに抜出すかが五  
大宗教の教えです。  
ならばどこかに解  
脱の法が準備され  
ているはずですが、  
それが三宝です。

畢竟の面目・・・  
最終のおおもとにな  
るもの。

苦悶の因縁・・・  
輪廻から抜出す事  
は、生きる苦・老い  
る苦・病氣の苦・死  
の苦しみ、の四大苦  
から根本的に解放